

BAN Z



サビキラープロ紹介動画

<http://www.sabi-killer.com>

<http://www.ban-zi.jp>

サビの奥まで浸透し、強力な錆転換機能でサビを酸化の進まない安定した状態(赤サビ→黒サビ)へと転換。これまでとは一味違う常識破りの画期的塗料です。



環境に配慮された完全水性塗料
サビに直接塗装するだけでサビの再発を防止
亜鉛メッキにも塗装が可能
上塗り塗料は何でも使用可能・密着良好

サビのない時代へ。

しつこいサビを根こそぎ封じ込む

シルバー

サビキラー PRO

水性 錆転換塗料

サビに直接塗れます

サビキラープロのサビを封じ込むメカニズム



錆転換反応とは
サビが錆転換する際に必要な3要素が錆転換剤・空気そして水です。この3要素がそろって初めて赤錆が黒錆に転換する反応が起きます。サビキラープロはサビの特性をよく理解した上で開発された水性塗料なので、塗装してすぐ反応を起こし、素早く確実にサビを逃さず黒錆に転換するのです。

◎サビキラープロのみで仕上げてもOKです。



①鉄部がサビて、塗装をする前の状態です。

②サビの上に直接「サビキラープロ」を塗ります。(サビキラープロはサビ転換剤と特殊顔料と水の3重構造)

③サビ転換剤と水がサビと反応して、赤サビが黒サビへと変換、サビの進行を止めます。

④進行しない黒サビに転換しガッチリ固定されている状態です。これで長期的にサビの再発及び新たなサビの発生を防ぎます。

⑤特殊顔料によって水性・油性どちらの塗料でも上塗りが可能です。サビを根こそぎ封じ込めた上にお好みの色で仕上げるすることができます。

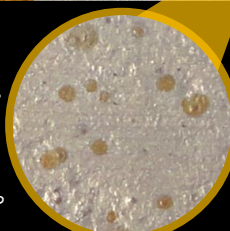
1回塗り

2回塗り

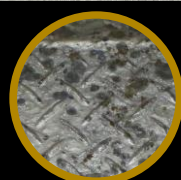


◀触ってぼろぼろ落ちるような浮きサビや膨れたサビは必ず落としてから塗装してください。

◀表面がツルツルしていたり、新しい塗膜の上に塗装する際は、サンドペーパー等で目荒らしをしてから塗装してください。

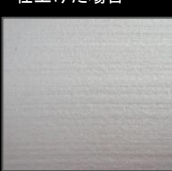


サビキラープロがサビによく反応した部分が茶色や黒っぽい色に変色することがございます。(変色しなくても効果に問題はございません。)その場合は乾燥後再塗装をしてください。※2~3回塗装しても反応色が出続ける場合は時間をあけて(半日~3日程度)から再塗装するか上塗り塗料で対応してください。



▲上記のように黒っぽい色に変色する場合があります。

▼サビキラープロで仕上げた場合



▼サビキラープロ以外の塗料で仕上げた場合(例)



1, サビの上に直接塗れます(サビ取り不要)

サビキラープロはサビ取り/サビ落としせずサビの上に直接塗装ができます。見つけたサビにすぐに塗れる手軽さに加え、サビの再発を防ぐ効果の高さは群を抜きます。ご家庭や職場に常備したい逸品です。※触ってポロポロ落ちるような浮きサビは落としてください。

2, ケレン作業(サビ取り)の手間とコストが省けます

従来の錆止め塗料はケレン作業(サビ取り)が必須で、それが不充分だと何を塗ってもサビの再発が防げません。100%完璧なケレンはプロでも困難でそれだけで手間や経費がかかってしまうのが現状です。しかしサビキラープロはケレン作業の手間も経費もカット。それなのにサビの再発を防ぐことができる画期的な塗料です。

3, 水性なのでエコで安心、しかも速乾型

従来の錆関連商品はほとんどが溶剤(油性系)であるのに対しサビキラープロはなんと水性塗料です。そのためシンナー等の臭いや燃焼等の問題もなく家庭でも安心してご使用いただけます。さらに水性なのに速乾性が高い為、あらゆる環境での活躍が期待できます。保管するのも安心です。(開封後約半年を目安に使い切るようにしてください)

4, 鉄部が湿っていても塗装が可能

従来の溶剤(油性系)塗料は塗布面が完全に乾いていないと塗装が出来ませんでした。しかしサビキラープロは水性なので鉄部が少々湿っていたり濡れていてもウエス等で拭き取ってからの塗装も可能です。

5, サビに限局せず簡単に塗装・作業性抜群

従来の錆転換剤の使用には、サビた部分のみの使用が限定されていました。実際には旧塗膜の付着やサビの無い部分もあり、施工は単純ではありません。サビキラープロは塗膜の上でも、サビの無い部分でも、もちろんサビの発生部でも区別なく塗れる抜群の作業性があります。

6, 亜鉛メッキにも塗装が可能

通常亜鉛メッキには塗料が密着しにくく、塗装は困難とされてきました。しかしサビキラープロは亜鉛メッキに密着が良好で、サビた部分のタッチアップのみでも全面塗装でも塗装が可能です。

7, 上塗り油性塗料の塗装が可能

通常水性塗料の上に溶剤(油性塗料)を使用するとチヂレ等のトラブルがありました。しかしサビキラープロはこれまでの常識を覆し、上塗りに溶剤(油性塗料)の塗装が可能(上塗り剤を選びません)画期的な塗料です。※塗装間隔は厳守してください。サビキラープロが完全に乾燥していない場合はチヂレを起こす事があります。

8, 錆止めプライマー&シーラーとしても使用可能

プライマーとして: サビキラープロはサビた部分は錆転換、またサビでない金属に塗った場合は錆止めの効果があり、上塗りをする前の下地処理に最適です。
シーラーとして: 旧塗膜(水性系、溶剤系)の上に処理した場合は、強溶剤及び溶剤系(油性塗料)を塗った時に起こるチヂレ等のトラブルを止める効果があります。

9, サビとの反応を変色で知らせるお知らせ機能付

サビキラープロはサビに直接塗装後、錆転換反応を起こしたことを黒や茶っぽい色に変色して知らせてくれます。(もちろん錆の状態や環境、素材によって反応色は出る場合と出ない場合がございます。出なくても錆にはしっかり反応しているため問題ありません。)反応色が出た際は必ず再塗布してください。(注1※をお読み下さい)

10, 取替えるより塗替えを選びたい魅力

トタンやビニールハウス(パイプ)、または外環境に設置してある鉄製のものは、ほとんどの場合サビから免れることができません。しかし総取替えとなるとコストや手間、時間がかかり容易ではありません。サビキラープロを使用し塗替えすることでそれらを大幅にカット。気付いたサビにすぐに塗れる手軽さも魅力です。※腐食してしまったものを元に戻すことはできません。



用途

- 鉄部全般
- 亜鉛メッキ

トタン・カラートタン・鉄骨・階段・折半屋根・公園遊具・サンドペーパー等で落としてください。

使用方法

- ①鉄部表面の浮錆・浮いた塗膜・油分ゴミ等はハンマー、ブラシ、サンドペーパー等で落としてください。
- ②本品をご使用前に中身を充分にかき混ぜてからご使用ください。
- ③注)もし振って気泡ができた場合は気泡がなくなってからご使用ください
- ④使用する量を別の容器に移しご使用ください。
- ④作業しやすい粘度に調整する場合は最大で0~5%の水道水で希釈してください。
- ⑤水性用刷毛やローラー・スプレーガン・エアレススプレー等で塗装してください。
- ⑥塗装後、表面に茶色及び黒色が浮かんできた場合はサビとよく反応している印です。その部分はもう一度塗装してください。(表紙写真参照)



	希 釈 率 (水道水)	
	通常サビ	ひどいサビ
前処置		本品 100% : 水 100%
1回目	本品 100% : 水 0~5%	本品 100% : 水 0~5%
2回目	本品 100% : 水 0~5%	本品 100% : 水 0~5%

注意事項

- サビキラープロの特性上、攪拌前に開封すると表面が黒っぽくなっておりま。塗装前に必ずよく攪拌してシルバー色になってからご使用ください。
- サビが深い場合は、サビキラープロを水道水で倍に希釈して前処置塗装を行うとサビの奥まで浸透しやすくなります。1回目は通常の希釈で塗装してください。
- 2度塗りの場合は1回目の塗装後2時間以上経過してから塗装してください。サビの発生がひどく深い場合は必ず2度塗りしてください。
- サビキラープロのみで仕上げる場合は上記表に各プラス1回の塗装が必要です。(希釈は0~5%)
- 上塗りに溶剤(油性)系の塗料を使用する場合は、必ず1日空けて乾燥を確認後塗装してください。本品の乾燥が不充分だと剥がれる可能性があります。
- サビのないツルツルした面や新しい塗膜の上に塗る際は、サビキラープロのりにくい場合がありますので、サンドペーパー等で目荒らしをしてから塗装してください。
- 間違えて塗装した場合は、本品が乾かないうちに布等で拭き取ってください。
- 使用後の余った塗料は容器に戻さないでください。(注1※)2~3回塗装しても反応色が出る場合がまれにございますが異常ではありません。もし外見が気になるようなら時間をあけて(半日~3日程度)から再度塗装していただくか、上塗り塗料で対応してください。サビキラープロは2回塗り以上で効果は充分に発揮されます。



性状・塗装条件

	▼サビキラープロ塗装後の上塗り			
	上塗りせずそのまま	水性塗料	油性塗料(弱溶剤)	油性塗料(強溶剤)
色 相	○	○	○	○
密 度(20℃)	1.12	温度、湿度	温度5℃以上 湿度85%以下	
標準塗布量	140~180g/m ²	希 釈	清水(水道水)	
膜 厚	Dry 30~40μ	引火点	なし	
乾燥時間(H)	指触 35分(5℃)・25分(20℃) / 半硬化 8時間(5℃)・4時間(20℃)	消防法分類	非危険物	
塗装間隔(20℃)	最 短 16時間(5℃)・8時間(20℃)	推奨チップ	No163-513~515	
エアレススプレー条件	1次圧 3~4kg/cm ² / 2次圧 100~135kg/cm ²			

施工事例写真



製造元: 株式会社BAN-ZI(バンジ)
〒262-0011
千葉県千葉市花見川区三角町118
<http://www.ban-zi.jp>